

今回の内容：①会議情報、②委員長等記者会見の様様

会議情報

最近の消費者安全調査委員会での議論についてお知らせします。

第106回消費者安全調査委員会（令和3年6月25日）

○ 自動ドアによる事故

報告書を取りまとめ、経済産業大臣、国土交通大臣に対して意見を具申することとしました。あわせて報告書の概要、周知資料及び動画を公表することとしました。

今回の調査では、自動ドアの製造業者から建物所有者・管理者の間には、建物設計者、施工業者、保全業者等多数の関係者が介在し、自動ドア製造業者が持つ安全に関する情報が各関係者に十分伝わっておらず、センサー交換で安全性が向上することや、子どもの手の引き込まれ防止の保護柵の設置などある。また、JIS規格にはセンサーの設定の推奨値が決められていたが、その検査方法やその治具が定められていないなど内容が不十分であること等が分かりました。

調査の結論を受けて、経済産業省には、製造業者等への安全対策の促進依頼及びJIS規格の見直しや、保全業者への保全点検に関する課題への対応を促していただくこと等を意見を具申しました。

また、国土交通省には、建築設計者に対し、センサー検出範囲の確保等の安全対策について、建物設計段階から検討し、建物設計に反映することを促していただくこと等を意見を具申しました。

○ トランポリンパークでの事故

重大事故2件を含め事故情報が寄せられており、今後、施設が増えた場合には、米国のように事故の発生の増加、また重傷事故に至る可能性が高いこと等から新たな調査案件として調査を行うことを決定しました。

○ ネオジム磁石製のマグネットセットによる子どもの誤飲事故

子どもが小さなマグネットボールを複数個を誤飲し、消化管が穿孔（せんこう、穴が開くこと）し、開腹手術した申出があり、非常に危険です。事故の再発防止のため新たな調査案件として調査を行うことを決定しました。

○ 一般の方からいただいた「申出」事案

事務局から、申出の内容等が報告され、その内容に基づき調査委員会で検討した結果、そのうち1件については調査事案として選定し、4件について調査を行わないこととしました。残りの案件（28件）については、引き続き、臨時委員、専門委員等の知見も活用しながら、事務局で丁寧に情報収集を行った上で、調査委員会において判断していきます。

今回の内容：①会議情報、②委員長等記者会見の様様

部会の動き

- 製品等事故調査部会（6月中旬に開催）
 - ・ ハンドル形電動車いすを使用中の事故のフォローアップ
事務局から説明があり、これを基に審議を行いました。
 - ・ 新規選定事案候補
事務局から説明があり、これを基に審議を行いました。
- サービス等事故調査部会（6月初旬に開催）
 - ・ 自動ドアによる事故
事務局から説明があり、これを基に報告書案の審議を行いました。
 - ・ 新規選定事案候補
事務局から説明があり、これを基に審議を行いました。

委員長等記者会見の様様

委員会後に委員長等の記者会見を行いました。

詳細は以下をご覧ください。

<https://www.caa.go.jp/policies/council/csic/statement/2021/>